

高齢動物に適した SRD-ES104A 顆粒の配合について

商品番号 006

白内障発症の原因については良く解っていないと言うのが現状ですが、主として加齢に伴う疾患の一つとして発症すると考えられています。また、白内障の発症に紫外線の影響は少ないと言う医師、研究者もいますが、紫外線による活性酸素の産生誘導は眼の組織の障害に繋がって居る事は否定できない、紫外線などの刺激によって生じる活性酸素の影響が大きいのではないかと考えられています。その理由として、マウスに紫外線を照射した実験的白内障、あるいは実験的糖尿病動物などを用いて酸化還元に関与するグルタチオンの白内障に対する効果について調べると明らかに白内障の発症抑制が確認され、最近の研究では、Lカルニチン、タウリン、VCなどが白内障予防に有効であることが示されています。

そこで獣医代替医療研究会では、白内障の発症を進展させる要因の一つとして紫外線など刺激によって生じる活性酸素の影響を栄養学的に改善できないものかと考えました。水晶体では細胞が新しくなり、入れ替わる事がなく、一生を通じて使われることとなります。従って老朽化が進んだ水晶体は疲労して、異物（変性タンパク質）が貯留しても排除するシステムが無く、水晶体内に留まる事になり、白濁して白内障の発症に繋がるものと考えられています。

そのようなことから加齢に伴う白内障（老人性白内障）は紫外線の影響が強く、その解決は臨床現場から強く求められていると考えます。眼球内へは血管の直接の分布は無く、水晶体、硝子体の物質の代謝移動は眼球周囲に分布している血管、毛細血管、リンパ管を通じて行われている事が考えられるため、その解決に血流を正常に保つ事が最も重要で、研究会では如何に血流を確保するかを考えました。特に顆粒サプリメントでは、ルテイン・ゼアキサンチン・カルノシン酸、グルタチオン、L-カルニチン、ビタミンC誘導體、タウリンなどを配合し、その効果を明確に発現させるためにヘスペリジン、ビタミンPなどの血流改善作用までも考慮した『抗酸化剤と生薬の組み合わせによる相乗効果』が期待できる栄養学的適用が明確な健康補助食品が提案できたと考えております。

